

皆様、こんにちは。いまだ議会承認がされていない CREATE MORE の今後の進展が気になる状況です。最近のトピックとしては、南シナ海を巡るフィリピンと中国の緊張が高まっております。また、9月中旬にニノイ・アキノ国際空港の運営が民営化されましたが、これに伴いサービス品質が向上されることを切に願っております。

7月号より「会計監査のいろは」として会計監査の流れや対応方法を解説しています。これまで「監査の目的」「会計基準」を説明して参りました。本号では会計監査でしばしば用いられる「重要性」についてお話します。

1. 重要性とは

第1回の解説のなかでは監査の目的として以下を取り上げました。

項目	フィリピン	日本
会計監査の目的	経営者の作成した財務諸表が、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、企業の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況を <u>すべての重要な点</u> において適正に表示しているかどうかについて、監査人が自ら入手した監査証拠に基づいて判断した結果を意見として表明することにある。	

太字で強調した箇所にお気づきの方もいるかもしれません。監査では財務諸表の細かい点まで全て検証し、適切に表示しているかどうかについて意見を表明するわけではなく、重要な点を適正に表示しているかどうかについて意見表明をしています。少し乱暴な言い方をしてしまうと「（細かい点までは保証できないが）大きな観点では全体として財務諸表は適切」という意見を表明しています。

2. 量的重要性和質的重要性

上述のように会計監査では重要な点を検証しています。この重要性という観点には量的重要性和質的重要性があります。

量的重要性	質的重要性
財務諸表の資産合計、売上高や当期純利益などの定量的情報に基づいて決定される重要性	注記情報など財務諸表で開示される情報のうち定性的情報に基づいて決定される重要性

量的重要性は財務情報として開示される情報のうち利益や総資産あるいは注記の数値情報に誤りがあった場合の程度を判断されるときに用います。

質的重要性は財務情報として開示される情報のうち、適用する会計方針や内部統制のあり方など開示されている定性的な情報に誤りがあった場合の程度を判断されるときに用います。

監査のなかで重要性が議論される局面においては、量的重要性を指しているケースが多いかと思えます。会計監査において監査チームとやり取りしていると、エラー（間違った会計処理や表示）の金額の量的重要性が乏しいため必ずしも修正は求めないという議論が見られることもあります。また財務諸表全体にとって重要でない（immaterial）エラーはパスできる（修正しなくても監査意見には影響しない）というやり取りも聞いたことがあるかもしれません。

これは例えば売上や経費が1,000ペソずれていても財務諸表の利用者にとって特に判断や意思決定を誤らせる恐れがないという判断に基づきます。一方で例えば同じ1,000ペソのエラーであっても本来間違えるはずのない資本金の額が間違っていれば、修正が必要になるなど勘定科目や局面によっても適用する重要性は異なります。また、不一致の要因がわからない預金残高明細と会計記録の差異など内部統制の不備や不正を示唆するエラーについても、その金額が小さいからという理由でパスできない場合もあります。

なお、この重要性に基づく判断に関しては財務諸表の会計監査では許容されますが、情報の利用目的が異なるBIR（内国歳入庁）とのやりとりでは基本的に認められない（金額が小さいからという理由で誤った税務申告を認めるわけではない）のでご注意ください。

3. 量的重要性の決定方法

監査を進める際には監査チームはまず量的重要性を決定する必要があります。この重要性は一般的に企業の規模や業態等に応じて、資産合計、売上高や当期純利益などのベンチマークに一定の%（5%、1%、0.1%など）を乗じることで決定されています。

重要性＝ベンチマーク（資産合計、売上高や当期純利益など）× 調整割合（%）

この重要性を決定することで、監査の進め方（どの勘定科目を中心に監査するか）や財務諸表の表示にエラーがあった場合の判断基準となります。この重要性は毎年監査チームによって決定されることから、毎年異なる重要性が監査では用いられます。そのため、

「会計処理や金額は過年度から変わらないのに、ある年突然監査でエラーとして指摘された」

といったケースでは例えば重要性が変わったことによって、今まで監査の対象となっていなかった取引が対象に含まれることになった可能性もあります。この重要性は監査を受けるクライアントには開示されることはありません。

本稿では第3回目として監査をする際に用いられる「重要性」について説明しました。しばしば監査の打ち合わせではMaterial（重要性あり）、Immaterial（重要性なし）という単語が出てくることがあるので、議論の参考としていただければ幸いです。次回は「監査と独立性」について解説する予定です。よろしくお願いいたします。

KPMG R.G. Manabat & Co. は、世界154カ国、20万人以上の世界最大級の国際会計事務所であるKPMG InternationalのMember Firmです。日本のKPMG あずさ監査法人とも連携をし、約1,300名のプロフェッショナルが監査、税務、アドバイザリー業務を皆様に提供しております。ご質問等ございましたら以下の担当者までお気軽にお問い合わせください。
--

小宮 祐二 M:0917-852-7526 E-mail:ykomiya1@kpmg.com
--

尚、当資料、情報に基づいて被ったいかなる損害につきましても、一切の責任を負いかねます。

Yuji Komiya is a Director from Japan Desk of KPMG R.G. Manabat & Co. (KPMG RGM&Co.), the Philippine member firm of KPMG International. This article is for general information purposes only and should not be considered as professional advice to a specific issue or entity. The views and opinions expressed herein are those of the author and do not necessarily represent the views and opinions of KPMG International or KPMG RGM&Co. For comments or inquiries, please email ph-inquiry@kpmg.com or ph-kpmgmla@kpmg.com.